

おだわら環境志民ネットワーク第2回意見交換会結果報告

(日 時) 平成28年11月22日(火) 18時30分～20時45分

(場 所) おだわら市民交流センターUMECO

(協 力) 石戸谷 博範(東京大学 生産技術研究所 平塚総合海洋実験場 博士(農学))
 滝田 叔歳(石橋ダイビングセンター代表)

(参加者) 別紙名簿のとおり

(プログラム)

18:30	開会	小田原市役所環境政策課・石井副課長より挨拶 おだわら環境志民ネットワーク会長 辻村氏より挨拶
18:45 ～ 20:10	講演 ①18:45～19:25 ②19:30～20:10	①石戸谷 博範 「小田原 一豊饒(北条)の海の未来ー」 ②滝田 叔歳 「食べておいしい、潜って楽しい、小田原の海」
20:10	休憩	
20:20	質疑・意見交換	
20:45	閉会	おだわら環境志民ネットワーク副会長 近藤氏より挨拶

(概 要)

小田原の森里川海の中から「海」をテーマに、日頃から「海」に携わる会員である石戸谷博範氏(東京大学 生産技術研究所 平塚総合海洋実験場 博士(農学))、滝田叔歳氏(石橋ダイビングセンター代表)を講師として講演を行った。

石戸谷氏からは、「小田原 一豊饒(北条)の海の未来ー」と題し、小田原の海の豊かさ、獲れる魚の豊かさ、定置網の歴史、ブリ漁の遷移、海の変化などの話があった。

小田原の海は地形や黒潮、また酒匂川や早川から流れる真水などの要因から、栄養素が豊富で様々な生物が生息する日本でも有数の豊かな海である。また、創業慶応2年という歴史をもつ米神漁場の定置網は、かつては日本一のブリ漁場として名を馳せたが、高齢化や急潮被害の原因からダメージを受けた。しかし漁具や設備の更新や従事者の若返りもあり、近年は再び漁獲量を増やしている。「樵一本、鰯千本」という漁師の言い伝えのとおり、ブナ林など箱根、丹沢、大山の豊かな森や林を再生することが、また再びブリ漁の盛んな小田原の海を取り戻すことにつながる。そのためには、森里川海のつながりを意識し、自然との共生を目指していくことと締めくくられた。

滝田氏からは、「食べておいしい、潜って楽しい、小田原の海」と題し、小田原の海で見られる様々な生物の紹介、温暖化により水温が上昇し生態系の変異、石橋沖に沈む海底遺跡、小田原城のお堀清掃に始まるダイバーとしてのボランティア活動などの話があった。

海の中では季節によって見られる魚が違うため1年中ダイビングは楽しめる。小田原の海にいる生物の中には、生息分布の最北限になるのではないかという種も見られ、新たな発見もある。こうした生物の豊富な小田原の海の魅力を是非とも多くの方に知ってもらいたいと

締めくくられた。

生物の豊富な小田原の海は、森や山から流れ込む栄養素により支えられている。これからもその生物の多様性を維持していくためには、海と森（山）と川の自然のつながりを意識し、共生していかなければいけないし、地元小田原の「海」について多くの方がもっとよく知らなければならない、そのためには一人一人何ができるのか、という今後のアクションプランを考える機会となった意見交換会になった。



(講師のお二人)



(辻村会長挨拶)



(講師：石戸谷 博範氏)



(講師：滝田 叔歳氏)

